

群 教 セ	E03 - 03
	平17.227集

進んで課題を解決していく 児童を育てる学級活動の工夫

— 課題解決のためのステップアップを図る
『みんなの学級会カード』の活用を通して —

特別研修員 市川 悟 (富岡市立額部小学校)

《研究の概要》

本研究は、進んで課題を解決していく児童の育成を目指し、学級活動の指導において、課題把握、話し合い活動、自己評価の工夫を行った実践的研究である。具体的には、学級や自分の課題を解決していく過程において、4種類の『みんなの学級会カード』を活用していくことにより、児童一人一人が課題に気づき、話し合いをしながら課題の解決方法を探り、進んで課題解決に向けた実践に取り組んでいくことができるようにしたものである。

キーワード 【小学校 特別活動 学級活動 話し合い活動 課題解決学習 カード利用】

I 主題設定の理由

近年の社会情勢や子どもたちの現状、実態を受け、児童・生徒が自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、問題を解決する力などの「生きる力」の育成が叫ばれている。新学習指導要領（特別活動）においても、学級活動では児童による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること、中学年になるにしたがって、徐々に自発的、自治的な活動が広がり、深まるように配慮することなどが求められている。

本学級の児童（小学校3年生 男子20名、女子13名、計33名）は、学習や諸活動への取組は全体的に真面目であり、与えられた課題等にも意欲的に取り組むことができる。しかし、課題意識をもち、現状で満足してしまったり、取組方が受け身で、指示を待ってから行動することが多くなってしまう傾向が強い。

こうした児童の実態を受け、指示を待ってから行動するのではなく、児童自ら課題意識をもち、主体的に話し合いながら解決方法を探っていく力を育成していくこと、また、それらの力が身に付くような場面を意図的に設定していくことが大切であると考えた。

そこで、「進んで課題を解決していく児童」を育てるために、学級や自分の課題を解決していく過程において、段階的に4種類の『みんなの学級会カード』を活用しようと考えた。本カードを活

用していくことにより、児童は自ら学級や自分の改善すべき課題をとらえ、主体的に話し合い活動に取り組みながら課題の解決方法を探り、進んで課題解決に向けた実践に取り組んでいくことができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

学級活動の指導において、4種類の『みんなの学級会カード』を活用して、「学級や自分の課題把握」、「課題解決のための話し合い活動」、「自己評価と実践」、それぞれの場面における工夫を行っていくことにより、児童が段階的に進んで課題を解決していくようになることを、実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

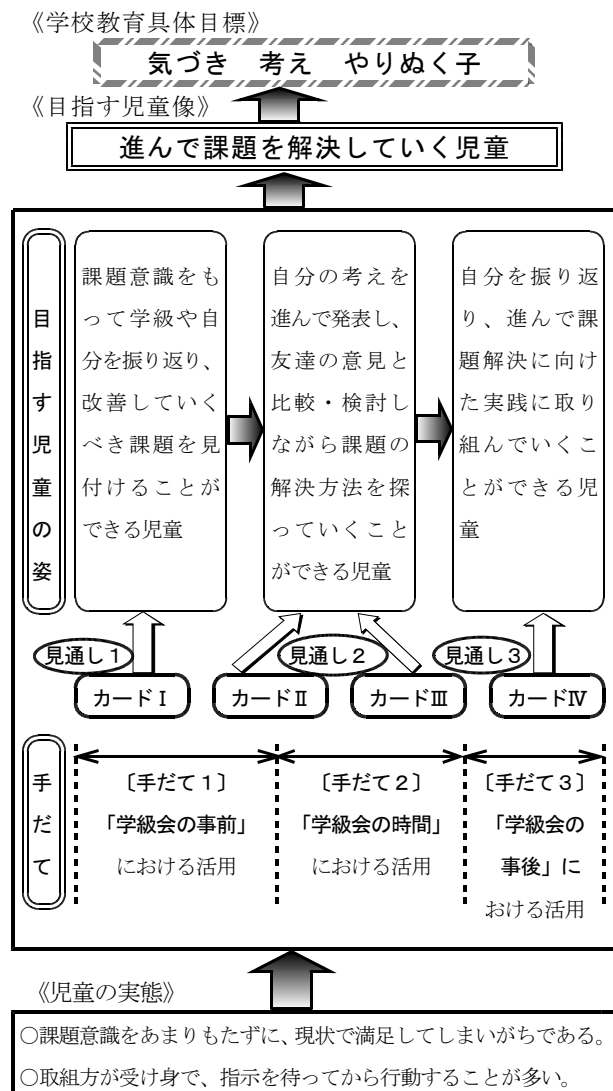
- 1 学級会の事前指導において、『みんなの学級会カードⅠ～学級や自分の課題を考えよう！～』を活用することにより、自ら課題意識をもって学級や自分を振り返り、改善していくべき課題を見付けることができるであろう。
- 2 学級会の場面において、議題に対する自分の考えや理由を記入した『みんなの学級会カードⅡ～議題について考えよう！～』、『みんなの学級会カードⅢ～友達の意見と比べて考えよ

う！～』を活用していくことにより、議題に対する具体化された自分の考えを進んで発表し、自分と友達の意見を比較・検討しながら課題の解決方法を探っていくことができるであろう。

- 3 学級会の事後指導において、『みんなの学級会カードⅣ～自分を振り返ってみよう！～』を活用してその日の話し合いまでの自分を振り返って自己評価し、今後心がけていきたいことを考えていくことにより、進んで課題解決に向けた実践に取り組んでいくことができるであろう。

Ⅳ 研究の内容

◎研究の全体構想図



1 基本的な考え方

(1) 「進んで課題を解決していく」とは

学級や自分に対する課題意識をもち、課題をとらえた上で、それをもとに設定された学級会の議

題を解決するための自分の考えをしっかりともち、話し合いを通して自分と友達の意見を比較・検討しながら、課題の解決方法を探っていくことである。そして、その日の話し合いについて自分の取組方を振り返り、今後心がけていきたいことを考えながら、進んで課題解決に向けた実践に取り組んでいくことである。

(2) 課題解決のためのステップアップを図る『みんなの学級会カード』とは

主題の「進んで課題を解決していく児童」にせまるために、それぞれの場面において段階的に活用する、A4版サイズの次の4種類のカードのことである。

ア 『みんなの学級会カードⅠ～学級や自分の課題を考えよう！～』（以下『カードⅠ』）
学級会の事前指導で、学級や自分の課題をとらえ、学級会の議題を考えていく場面において活用する。学級や自分の課題を具体的に考えやすいように、課題として自分が考える項目に○を付け、それについての自分の考えを文章記述できるようにしたカードである。自ら課題意識をもって、学級や自分の改善すべき課題を見付けるための手だてとして活用する。

イ 『みんなの学級会カードⅡ～議題について考えよう！～』（以下『カードⅡ』）
学級会の事前指導から学級会の中で活用する。『カードⅠ』に挙げられた課題の中から設定された議題について、学級会の事前に、自分の考えとその理由を端的にまとめて記述できるようにしているカードである。児童は、このカードに自分の考えを記入してから学級会に臨む。議題に対する具体化された自分の考えが記入されたカードをもとに、意見を進んで発表できるようにするための手だてとして活用する。

ウ 『みんなの学級会カードⅢ～友達の見解と比べて考えよう！～』（以下『カードⅢ』）
学級会の中で活用する。自分と友達の意見を比べながら、参考になった友達の意見を挙げ、それを聞いて自分の考えたことを記入していくカードである。友達の意見を聞き、自分の意見と比較・検討しながらよりよい考えを出し、課題の解決方法を探っていくための手だてとして活用する。

エ 『みんなの学級会カードⅣ～自分を振り返ってみよう！～』（以下『カードⅣ』）
学級会の事後指導において活用する。その日の話し合いまでの自分の振り返りをして自己評価し、

学級会の中で頑張れたこと、反省点、これから自分が心がけていきたいことを記入していくカードである。また、「先生より」の欄に、事後に教師からの励ましの言葉などを書いて児童に返す。話し合いまでの自分の取組方を反省しながら、今後自ら課題解決に向けて実践化を図るための手だてとして活用する。

2 実践の概要及び結果と考察

(1) 自ら課題意識をもって学級や自分を振り返り、改善していくべき学級や自分の課題を見付けることができたか（見通し1）。

ア 実践の概要

児童一人一人が課題意識をもち、学級や自分を振り返って改善すべき課題を見付けていくことができるようにするための手だてとして、『カードI』を活用した。

カードの工夫として、児童が学級や自分の課題を具体的に考えやすくするために、児童に意識して考えさせたい課題の項目をあらかじめカードに記載しておき、そこから児童一人一人が考えた課題を、自分の言葉で記入できるようにした。

また、カードを使用する際の指導の工夫として、自分でなかなか課題が見付けられない児童には、それぞれの課題の項目について具体的に考えられるような助言を与え、自分で課題を見付けられるようにした。助言は、課題となりそうな項目に対して、活動の時間帯や場所などを具体的に挙げながら尋ねるなどし、児童が学級や自分を振り返って課題を考えやすくするように心がけた。カードは記入後に回収し、集められた課題の中から、話し合う必要性のある課題を児童に紹介しながら、次の学級会で議題として取り上げるようにした。

イ 結果と考察

抽出児A子は『カードI』が配られると、カードの書き方についての教師の説明を聞いた後、カードに記載されている課題の項目を見て、学級や自分の課題について、考えを巡らせている様子であった。すぐには記入することができなかったが、しばらく考えた後、課題項目3の「時間に対するけじめについて」に○を付け、課題について自分の言葉で記述した（資料1）。

学級会の事前に課題を考える場面において、『カードI』を活用することにより、A子は学級や自分について考える時間を十分にとることができ、課題意識をもって学級や自分の課題について振り

資料1 A子の『カードI』に書かれた学級の課題の記入例

The diagram shows a worksheet titled '学級や自分の課題' (Classroom or My Own Topic) with a sub-header 'ここはもっとこうにした方がいいなあ!' (I wish I could do it better here!). Below the title is a table with 7 rows and 2 columns. The first column is '○をつけよう' (Put a circle here) and the second column is '課題のジャンル (内容)' (Topic Genre (Content)).

○をつけよう	課題のジャンル (内容)
1	授業や学習面 について
2	休み時間などの過ごし方 について
③	時間に対するけじめ について
4	係活動 について
5	友だち関係 について
6	準備や計画をした方がいいこと について
7	その他 () について

Below the table is a box containing the text: 'ぼくは、わたしは、こう思います!' (I think like this!). An arrow points from this box to a larger box containing a handwritten note: 'わたしは朝礼や集会の時に、まだランドセルの用意をしている人がいるので、しんていをもっと早くした方がいいと思います。' (I think it would be better to get the school bag ready earlier because there are still people getting their school bags ready during morning assembly or school meetings.)

返り、自分の考えとして課題をまとめることができたと考えた。

A子が記述した課題の内容である「時間に対するけじめについて」は、行動が遅くなりがちな学級や個人の課題として考えていくべき課題である。記述の中でA子は、「朝礼や集会がある時に、遅れて用意をしている人がいる。」という改善すべき点を挙げ、「準備をもっと早くした方がいいと思う。」という自分の考えを具体的に提示していた。このことからA子は、『カードI』を活用することにより、課題意識をもって学級のことを振り返り、改善していくべき課題を見付けることができたと考えた。

また、学級全体としては、学級や自分の課題について考えて『カードI』に記入する場面において、児童は学級や自分のことを振り返りながら、全員が改善すべき課題について考えて記入することができ、一人で複数の課題を見付けられた児童もいた（資料2）。

課題として児童が挙げた内容については、授業や学習に対して集中することの必要性や、休み時間に友達同士仲良く遊ぶことの大切さなどを挙げており、学級の実態をふまえ、改善すべき課題として挙げられる必要性のあるものが多かった。

以上のことから、『カードI』を活用することにより、自ら課題意識をもって学級や自分を振り返り、改善していくべき課題を見付けることができたと考えた。

資料2 児童から挙げられた課題の内容と人数

	課題の内容	人数
1	授業や学習面について	17
2	休み時間などの過ごし方について	13
3	時間に対するけじめについて	12
4	係活動について	8
5	友達関係について	8
6	準備や計画について	4
7	その他（忘れ物などについて）	4

(2) 議題に対する具体化された自分の考えを進んで発表し、自分と友達の意見を比較・検討しながら、課題の解決方法を探っていくことができたか（見通し2）。

ア 実践の概要

学級会の事前に、児童は決定した議題（今回の議題は「係活動をしっかりするにはどうしたらよいか」）に対する自分の考えと理由を、『カードⅡ』に端的にまとめて記入した。教師が事前に目を通し、自分の意見をしっかりと考えられていない児童や文章表現のおかしい児童には助言を与え、自分の言葉でまとめることができるようにした。

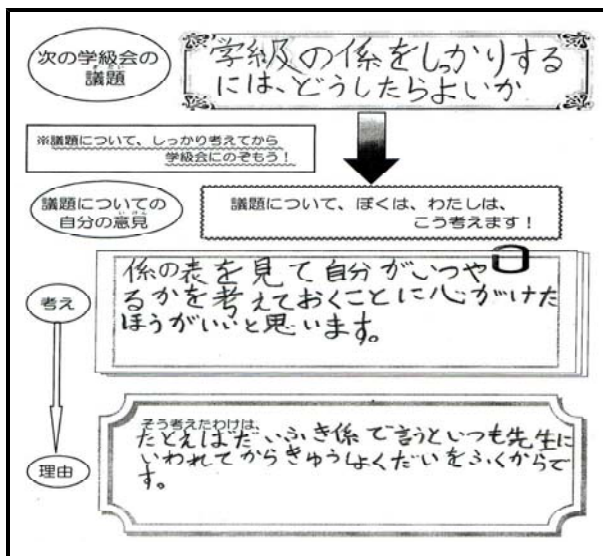
学級会の中で、児童は『カードⅡ』をもとにして、自分の意見を整理して発表した。また、自分と友達の意見を比較・検討し、参考になった友達の意見や、それを聞いてさらに自分の意見と合わせて考えたことを『カードⅢ』に記入しながら、話し合いの中で課題解決のためのよりよい考えがもてるようにした。

イ 結果と考察

抽出児A子は、事前に記入した『カードⅡ』には、「台ふき係」がいつも先生に言われてから仕事を始めているという、学級の係活動についての改善すべき点を挙げ、係の表を見て、自分がいつ当番なのかをいつも意識して仕事をすることが大切だという自分の考えを記入していた（資料3）。

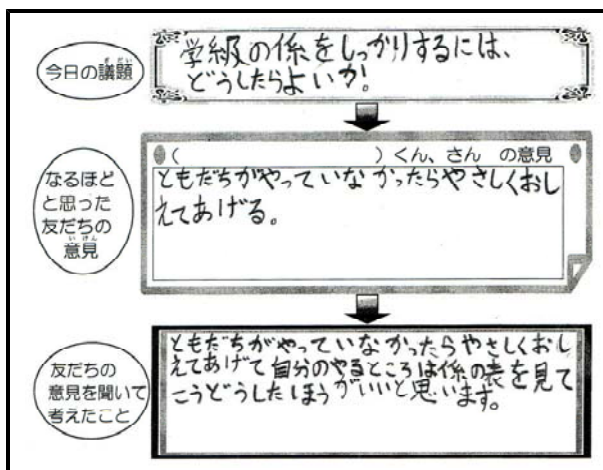
学級会においてA子は、司会の投げかけからすぐに挙手することができ、二番目に指名されて自分の考えを発表した。発言は、「私は、係の表を見て、自分がいつやるか考えるように心がけた方がいいと思います。そう考えたわけは、台ふき係はいつも先生に言われてから給食台をふいているからです。」という内容であり、『カードⅡ』を見ながら、はっきりとした声で自分の考えを発表した。

資料3 A子の『カードⅡ』に書かれた、議題に対する自分の考えとその理由



発言後は、友達の発言に耳を傾けて聞いていたが、7人目の児童の「わたしは、友達が係の仕事をやっていたら、やさしく教えてあげた方がいいと思います。そう考えたわけは、教えてあげないと、気付かないでさぼってしまうからです。」という意見を聞いて、『カードⅢ』に記入し始めた（資料4）。

資料4 A子の『カードⅢ』に書かれた、参考になった友達の意見とそれを聞いて考えたこと



A子は、記入できてからもう一度挙手し、「わたしは、自分の意見と〇〇さんの意見を合わせて考えて、友達が仕事をやっていたらやさしく教えてあげて、自分のやる場所は係の表を見て忘れずに行動した方がいいと思いました。」と発言した。事前に自分の考えをまとめておいた

『カードⅡ』を学級会の中で活用したことにより、ふだん積極的に発言することが少ないA子も自分から進んで挙手し、自分が考える課題の解決方法を落ち着いて発言していた。

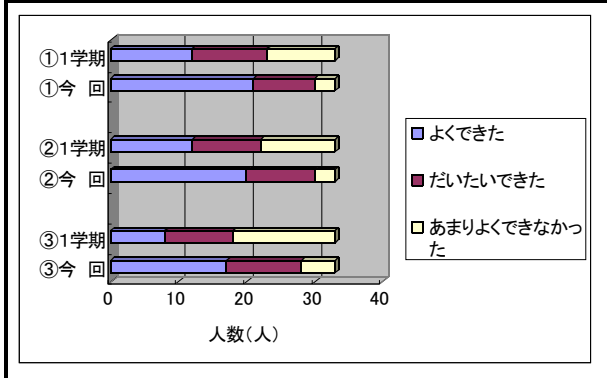
また、『カードⅢ』を学級会の中で活用したことにより、友達の見解を注意深く聞き取るように心がけ、友達のよい意見を取り上げて、自分の意見と合わせた解決方法をカードに記入し、二度目の発言をした。『カードⅢ』を活用したことにより、A子は自分と友達の意見を比較・検討しながら、両方の意見を合わせた、よりよい解決方法を探っていくことができたと考える。

学級会における学級全体の挙手や発言の様子について考察すると、話し合いの最初に挙手をし、発言できた児童は、司会グループを除いた27名中15名と、半数以上を占めた。また、最初に挙手できなかった児童も、話し合いの中では挙手をし、最終的には、全員が自分の意見を発表することができた。どの児童も、自分の考えが記入された『カードⅡ』をもとにして発表しており、カードは解決方法を発表するための有効な手だてとなっていると考える。

また、カードを活用する以前の1学期の学級会后と、カードを活用した今回の学級会后に、児童にアンケートを実施した(資料5)。

資料5 児童へのアンケートの回答結果より
 <質問項目>

- ①自分の考えとその理由をしっかりと発表できたか。
- ②学級会で友達の意見を自分の意見と比べながら聞いたか。
- ③友達の意見を参考にして、友達と自分の意見を合わせて考え、よりよい方法を考えられたか。



この結果を見ると、『カードⅡ』活用後の、自

分の考えを進んで発表することができた児童数、『カードⅢ』活用後の、自分の意見を他の意見と比べて考え、よりよい解決方法を探っていくことができた児童数、ともに増加しており、カードを活用したことの有効性の表れと考える。

事後に実施したアンケートにおける、話し合い活動に対する児童の感想の記述には、多くの児童が「カードを使ったので進んで手を挙げられ、自分の考えを今までよりもしっかりと発表することができた。」という内容を書いていた。参考になった友達の意見をカードに書きとめながら話し合っていくため、人の意見をよく聞いて理解するようになったという感想も見られた(資料6)。

資料6 アンケートの中の、カードを使っでの話し合い活動に対する児童の感想例

- ・カードがあったので、思ったことがはっきり発表できました。
- ・カードを使えば意見を考えておくから、前よりもいっぱい発表できるようになりました。
- ・前よりも進んで手を挙げられるようになったので、とってもよかったです。
- ・人の意見をよくりかいでできました。
- ・発表の時に、自信をもって発表できました。
- ・みんなもたくさん発表していたけど、わたしも発表できたのでよかったです。

以上のことから、『カードⅡ』、『カードⅢ』を活用していくことにより、事前に議題に対する自分の考えをまとめ、その考えをカードをもとに進んで発表し、自分と友達の意見を比較・検討しながら、課題の解決方法を探っていくことができたと考える。

- (3) 課題解決に向けての自分の取組方を振り返り、進んで課題解決に向けた実践に取り組んでいくことができたか(見通し3)。

ア 実践の概要

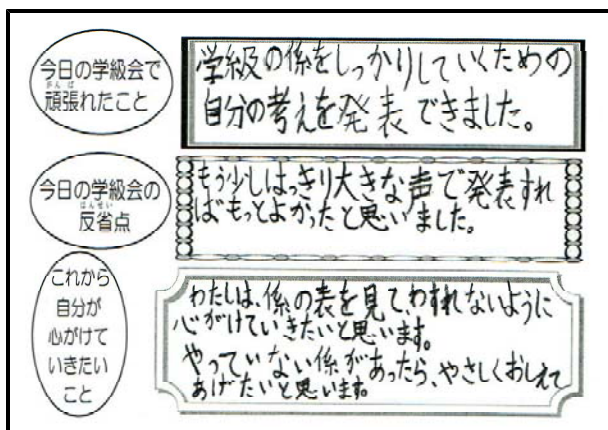
学級会の事後に、児童はその日の話し合いまでの自分の取組方を振り返って、『カードⅣ』に項目ごとに3段階で自己評価した。また、話し合いの中で頑張れたことや反省点を挙げ、話し合ったことをもとに、課題解決に向けてこれから自分が心がけていきたいことを整理して文章化した。

カードは一度回収して、児童一人一人が課題解決に向けて、自分が心がけていきたいことを実践していける励みとなるよう、「先生より」の欄にコメントを書いて返した。その後、機会をとらえ、児童の課題解決に向けた取組について、学級全体、あるいは個人に賞賛や助言を与えたりして、話し合ったことがその後の課題解決につながっていくよう支援した。

イ 結果と考察

抽出児A子は話をふまえ、『カードⅣ』の中で、課題解決のためにこれから自分が心がけていきたいことを、「係の分担表を見て忘れないように心がけていきたい。やっていない係があったら、やさしく教えてあげたい。」と、自分の言葉で記述していた（資料7）。

資料7 A子の『カードⅣ』に書かれた、これから自分が心がけていきたいこと



以前A子は連絡係として、次の日の予定などを他の児童に連絡する仕事を忘れがちで、言われてから気付くことが多かった。しかし、今回の話し合い後は、自分の当番の日を忘れないよう心がけるようになり、教師が言わなくても予定を端的に伝えられていた。また、仕事を忘れていた児童に、「〇〇君、今日当番だよ。」と教えてあげている場面も見られた。

他の児童の記述には、「これから自分が心がけていきたいこと」として、資料8のような内容が挙げられていた。これらの記述を見ると、児童は話し合いの結果をもとに、友達の意見を参考にして、これから自分が課題解決のために心がけていきたいことを自分なりによく考え、今後実践していきたいと考えていると言える。

また、「先生より」の欄に、教師からの励まし

資料8 他の児童の『カードⅣ』に書かれた、これから自分が心がけていきたいことの記入例

- ・先生に言われなくても、きちんと係の仕事ができるようにしていきたいです。
- ・〇〇くんや△△さんの意見を目標にして、これからも係の仕事をさぼっていかないようにしたいです。
- ・これから係の仕事をさぼらないで、友達と協力してやっていきたいです。
- ・自分で発表して決めたことや、友達の意見をしっかりと守っていきたいです。

の言葉などを書いて児童に返したことにより、児童はそれを見て自分が記述したことを再確認し、その後、自分の課題解決に向けた実践に取り組んでいく姿が見られるようになった。

児童へのアンケートにおける、課題解決に向けた質問に対する回答結果を見ても、全員の児童が課題解決のために自分が心がけていきたいことを『カードⅣ』を活用して考えることができている、それを今後実行しようと考えたという結果が出ている。

以上のことから、『カードⅣ』を活用してその日の話し合いまでの自分を振り返って自己評価し、今後心がけていきたいことを考えていくことにより、進んで課題解決に向けた実践に取り組んでいく態度の育成につながったと考える。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

『みんなの学級会カードⅠ』を活用したことにより、自分で課題意識をもって学級や自分を振り返り、改善していくべき学級や自分の課題を見付けることができるようになった。

また、『カードⅡ』、『カードⅢ』を活用したことにより、自分の考えをカードをもとに進んで発表し、3年生なりに自分と友達の意見を比較・検討しながら、よりよい課題の解決方法を探っていくことができた。

そして、『カードⅣ』を活用して、自分を振り返りながら、今後心がけていきたいことを考えたことにより、その後多くの児童が、課題解決に向

けた実践に進んで取り組んでいくことにつながったと考える。

また、事後に実施したアンケートにおける児童の感想の記述の中には、次のようなものが見られた（資料9）。

資料9 アンケートの中の、解決方法を考えていく話し合い活動に対する児童の感想例

- ・みんなで話し合いをするから、いろいろな方法などが考えられていいと思います。
- ・学級会をやって、「守ることを守る」という気持ちになれました。
- ・休み時間の過ごし方について話し合っ、休み時間になかよく遊べるようになりました。
- ・学級会をやって、そのテーマのことがだんだんテーマどおりになっていると思います。
- ・友達とのつき合い方で決まったことを守ったので、友達とどのようにつき合っていけばいいのか考えながら、友達となかよくすごすように心がけるようになりました。
- ・カードに書いたことを守ろうと思ったので、係の仕事を忘れないようになりました。
- ・係の仕事をやる人が前よりもふえました。

これらの感想から、4種類の『みんなの学級会カード』を活用しながら皆で話し合っていくことにより、児童は自分たちで課題を見付け、その解決方法を探り、解決に向けた実践に取り組んでいくように心がけるようになったことがうかがえる。

カードを活用した話し合い活動等を通して、課題解決に向けた取組における、1学期当初からの児童の変容が随所に見られるようになった。

2 今後の課題

より活発な、内容のある話し合い活動にしていくために、児童から出された学級や自分の課題の適性や必要性、課題から議題を選定する際の方法などを検討していく必要がある。

また、アンケート結果にも表れているように、自分の意見を言うだけでなく、友達の考えと自分の考えを比較・検討しながら、よりよい解決方法を探っていく点がまだ十分ではない。カードの内

容や、話し合いの中での活用の仕方を検討し、より内容の濃い解決方法を探っていけるよう、改善していく必要がある。

さらに、話し合われた内容を、課題解決のための実践につなげていくために、また、話し合い後の実践を一時的なものにしないために、実践の様子の振り返りと継続につながる支援を、今後も適宜行っていく必要がある。

〈参考文献〉

- ・文部省 『小学校特別活動指導資料 新しい学力観に立つ特別活動の指導の創造』 東洋館出版社(1993)
- ・文部省 『小学校特別活動指導資料 新しい学力観に立つ特別活動の授業の工夫』 東洋館出版社(1995)
- ・宮川 八岐 編著 『小学校特別活動 基礎・基本と学習指導の実際 ―計画・実践・評価のポイント―』 東洋館出版社(2002)
- ・伴 貞男・福田 俊彦 編著 『これからの特別活動② なかよく楽しい学級活動<3・4年>』 東洋館出版社(1992)
- ・青木 孝頼 編著 『新学習指導要領の授業展開 小学校特別活動指導細案 学級会活動・学級指導3年』 明治図書(1980)

(担当指導主事 阿部 泰博)

